

館 列 陳 品 商 濱 爾 哈  
ト ツ レ フ ン バ

組 ト ー ケ ジ ン シ 邦 聯 蘇  
合 組 産 生 業 農 及 買 購 織

月 三 年 六 和 昭  
號 五 五 一 第

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



### 露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は歐露、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信するを目的とします
- 一、本會は左の刊行物を發行します
  - (イ)露亞 時報—露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)
  - (ロ)パンフレット—同上記事を三〇頁乃至百頁に一纏めにしたる單行書であります(月二回)
  - (ハ)週報—週内哈爾濱地方に起りたる出來事を簡報し讀者の質問に供するのであります(週刊謄寫版)
- 一、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります
- 一、會員は一ケ年拾貳圓の會費を前納しまして前記諸刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱道裡斜紋街商品陳列館内

### 露滿蒙通信刊行會

哈爾濱商品陳列館

パンフレット第一五五號

### 蘇聯邦シンジケート組織、購買及農業生産組合

本編は一九二八年蘇聯邦商業人民委員官發行内國商業十年史中の抜粋にして若干後れたるの感あるも、亦其一斑を窺ふに足るものあるに依り、館員林野中一をして翻譯刊行せしめたり。

昭和六年三月十五日

森 御 蔭

### 露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は歐露、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信するを目的とし
- ます。
- 一、本會は左の刊行物を発行します
  - (イ) 露亞 時報 露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)
  - (ロ) バンフレット 同上記事を三〇頁乃至百頁に一纏めにしたる單行書であります(月二回)
  - (ハ) 週報 露滿蒙地方に起りたる出來事を簡報し讀者の質問に供するのであります(週刊簡報版)
- 一、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります
- 一、會員は一ケ年拾貳圓の會費を前納しまして前記諸刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱道經綏興路商品陳列館内

### 露滿蒙通信刊行會

哈爾濱商品陳列館

バンフレット第一五五號

### 蘇聯邦シンジケート組織、購買及農業生産組合

本編は一九二八年蘇聯邦商業人民委員會發行内國商業十年史中の抜粋にして若干後れたるの感あるも、亦其一斑を窺ふに足るものあるに依り、館員秋野中一をして翻譯刊行せしめたり。

昭和六年三月十五日

森 御 蔭

蘇聯邦シンジケート組織、購買及農業生産組合

目次

蘇聯邦シンジケート組織	ラマーキン述	一
第一章	シンジケートの勃興	一
第二章	シンジケート化の發達	四
第三章	シンジケートの取引機關	二二
第四章	シンジケートの取引經費	二七
第五章	シンジケートの資産状態	三一
蘇聯邦購買組合	イリイン述	三八
第一章	概説	三八
第二章	組合網、賣店、出資者	三九
第三章	購買組合の使命	四一
第四章	組合の諸相	四九

第五章 購買組合の財政状態……………五二

第六章 組合の取引経費及諸掛……………五五

農業生産組合 …… ドミトレフスキー述……………五七

……(目次)……

## 蘇聯邦シンジケートの組織

### ラマーキン述

#### 第一章 シンジケートの勃興

産業復興期の初期にありては、諸々の國民産業部門の物資技術の根源は個々に發展を遂げて、必ずしも同一程度を以つて進まざるを常とする。

例へば工業方面に付て云ふ時は、諸種の工業間にありては勿論、同一物資の生産事業にあつてさへ、工場異なるに従つて各具發展の程度を異にする。

何業に關らず生産聯合團體は、其技術的設備の状態及生産に重大なる經濟條件を共通にする事に依つて、他の個々の事業に比して生産品の品質の點から見ても、生産費の點から見ても、最も好都合の條件に置かれる可能性が多いから、従つて販賣市場に於ても都合好き地位を占め得べきは當然である。

如斯状態は又一方から云ふ時は生産團體が各組織する販賣機關間に激烈なる競争を起さしめ、

市場に不健全なる雰囲気醸成を醸成しむる基となる事がある。

此種の競争の激烈なるに及びては市場の正規の状態が攪亂せらるるのみならず根本たる生産事業の正鴻をも誤らしむる事となる。

各種生産合同が市場に適宜なる協調なくして進出する事は、徒らに不健全な競争を醸成しむるのみならず、販賣網の手持品を過大ならしめ、物資分布を不平均ならしめ、一方に同一品の洪水を来たすと同時に他地方に於ては同一品の餓饉を來さしむる。

計画的平等分布及諸地方に必要時期に應じて物資を分布する爲めに（之は破壊せられたるソウエート工業に採つては最も困難とする處である）は、貨物部門の最底限度の集中主義を採るを必要とする。

加之一方工業は急速に發達もするが故に原料を計画的に供給する必要がある、之に應ずるが爲めには工業界は販賣機關と兩立すべき供給（原料購買）機關を設くるの必要がある、國家の有する工業原料品を計画的に、又適當に諸々の工業企業間に分配し、適宜に利用せしむる機關の必要が認めらるるに至りしは當然である。

工業の發達に正比例して原料供給問題が抬頭し來り、其正確が要求せらるるに至りしは自然の勢である、原料品供給業務の不正確には中断は、管に生産計畫を脅威するに止らずして、延いて工業全体の發達歩調を紊るものである。

以上列記したる諸事情は相待つて工業界内部の利益及市場との連絡を計るべき協調機關の組織をうながす理由となつて居る。

如斯中央機關の組織せらるるに於ては、工業と農業との間を圓滑に連絡せしむる事を得るのみならず、國家の産業計畫全般に涉つて其使命を果さしむるに多大の便宜がある。

此目的に最も好く適合するものはシンジケートである、蘇聯邦にシンジケートが初めて勃興したのは一九二二年で、總ての工業部門が殆んど時を同じうして之を組織し、合同した。

同年組織されたシンジケートは左の通りである。

- |                            |       |    |
|----------------------------|-------|----|
| (一) 全蘇聯邦維工業シンジケート(ウエーデーエス) | 一九二二年 | 三月 |
| (二) 鋼寸シンジケート(スピービ、シンジカート)  | 同     | 同  |
| (三) 皮革シンジケート(ロージユ、シンジカート)  | 同     | 四月 |

- (四)食鹽シンジケート(ソーレ、シンジケート) 同 同
- (五)ウラル金屬シンジケート(ウラル、メート) 同 同 五月
- (六)農具シンジケート(セリ、マシ) 同 同 同
- (七)煙草シンジケート(タバコ、シンジケート) 同 同 同
- (八)紙煙草シンジケート(マホル、シンジケート) 同 同 六月
- (九)硫酸(硝子類)シンジケート(フロダ、シリケート) 同 同 同
- (十)ミシン、シンジケート(シンド、シペイ、プロム) 同 同 七月
- (十一)石油類シンジケート(ネフテ、シンジケート) 同 同 九月
- (十二)製油シンジケート(マスロポイ、シンジケート) 同 同 十一月
- (十三)澱粉シンジケート(クラフマル、バスト、シンジケート) 同 同 一月
- (十四)金屬シンジケート(メタロ、シンジケート) 一九二三年 九月
- (十五)獸魚脂シンジケート(ジール、シンジケート) 同 同 九月

第二章 シンジケート化の發達

諸工業部分にシンジケートの組織せらるるや生産事業の大部分は競つて之に加入した。而してシンジケートの發達と其組織技術並に財政上の強固なるに伴つて市場に對する威力、影響を現はして來た、而して之と同時にシンジケートは其生産品の數量、種類、品質、生産原價等總ての點に涉つて目醒しき發達の可能性を示した。

シンジケートは工業方面より多大の注意を向けられ、破壊に苦しむ企業体の利益を代表する中央機關となり、又總ての産業計畫と密接なる連絡を採るに至つた。

小規模にして設備不充分なる工業企業はシンジケートに加入せる爲め、大規模にして設備完全なる事業と同様に財政、販賣原料供給計畫に於て各其地位を確保する事が出來た、シンジケート化の發達はシンジケートの手中に資金を吸集し、集中統一する使命をはたす事が出來た、従つて諸シンジケートは其屬する事業の經濟を同等地位に平均する事が出來た。

如斯して新らしき生産合同体を作りたるシンジケートは自然の勢としてシンジケート化したる事業の根本に根を張つて行つた、現在では既に砂糖及護謨事業を除くの外十五種の大工業部分はシンジケート化して居る、砂糖事業及護謨事業はトラストが組織されて居る爲めシンジケートの

組織を必要としないわけである、従つて工業のシンジケート化は之を以つて一段落とする筈で、  
 次表に依つて其大体を察知する事が出来る。(第一表)(單位千留)

事業種別	年 別	總生産高	其シンジケート化した生産高	總生産高に對する%
纖維工業	一九二四—二五年	一、四八〇、〇〇〇	一、二四四、六三六	八三、〇
	同 二五—二六年	一、八一八、三〇〇	一、五五六、九五三	八五、五
	同 二六—二七年	二、二四八、三〇〇	一、九三四、三〇〇	九〇、〇
	同 二四—二五年	二四八、三八三	二〇八、三七〇	八四、〇
皮革工業	同 二五—二六年	二九六、五〇〇	二三四、五九〇	七九、五
	同 二六—二七年	三三五、四〇〇	二九三、八九一	八七、五
	同 二五—二六年	九〇六、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四四、〇
金屬工業	同 二六—二七年	一、一六〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	七七、五
	同 二四—二五年	五三、一九八	三九、四五八	七四、〇
硝子工業	同 二五—二六年	七九、五五五	七〇、二〇七	八八、二
	同 二六—二七年	一一二、九〇〇	八七、七五〇	八〇、二
	同 二四—二五年	二四、九七七	二二、九七七	九六、〇

事業種別	年 別	總生産高	其シンジケート化した生産高	總生産高に對する%
陶磁器工業	同 二五—二六年	三三三、二一六	三三二、五三一	九七、六
	同 二六—二七年	四三三、三〇〇	三九、七〇〇	九八、〇
	同 二四—二五年	二四、九七七	二二、九七七	九六、〇
	同 二五—二六年	二五一、三九〇	二四八、五四八	九八、七
石油事業	同 二五—二六年	三四七、〇〇〇	三四七、〇〇〇	一〇〇、〇
	同 二六—二七年	三九二、〇〇〇	三九二、〇〇〇	一〇〇、〇
	同 二四—二五年	三三二、〇〇〇	二九、〇〇〇	九一、〇
採鹽事業	同 二五—二六年	三八、二〇〇	三八、二〇〇	一〇〇、〇
	同 二六—二七年	三八、八〇〇	三八、八〇〇	一〇〇、〇
	同 二四—二五年	八四、六七五	四七、四三四	五六、〇
製油事業	同 二五—二六年	九九、三〇〇	七四、七二〇	七五、三
	同 二六—二七年	一〇一、九〇〇	八四、六九三	八二、五
	同 二五—二六年	七七、六〇〇	三四、四八四	四四、四
油脂香料事業	同 二五—二六年	一一〇、五〇〇	五三、七一二	四八、五
	同 二六—二七年	—	—	—



葉煙草事業	同 二四一二年	二八、五四八	一〇、八七四	三八、一
	同 二五一二六年	五一、〇〇〇	二二、九五〇	四五、〇
	同 二六一二七年	六三、四〇〇	三〇、四〇〇	四七、九

機寸 水業	同 二四一二年	三五、〇〇〇	三二、八三五	九三、八
	同 二五一二六年	四八、四〇〇	四一、五八九	八五、九
	同 二六一二七年	五一、八〇〇	四八、二五一	九三、一

澱粉 水業	同 二五一二六年	一六、七〇〇	一五、二〇〇	八九、九
	同 二六一二七年	一一、八〇〇	一一、一〇〇	八八、七

計	同 二四一二年	一一、三三八、一七一	一、八八五、一三二	八四、二
	同 二五一二六年	三、八二八、四七一	二、八八三、四二四	七五、五
	同 二六一二七年	四、六〇三、九〇〇	三、九四四、六九七	八五、六

一九二八年度には工業シンジケート化の割合は其當初に於て八五%六に達して居るので、之にトラスト化したる砂糖及護謨事業を加算する時は其割合は八八%に達する有様である。工業のシンジケート化の進捗に従つて販賣も亦合同化する事は當然である、シンジケートが年

と共に工業生産品の大部分を占むるに従つて、同時に之を販賣する根本機關となりつつある。現在シンジケートは其取扱貨物の急激なる増加に依つて、市場に於ける大部分貨物の保持者となつて居る、左表は其取扱高を示すものである。(第二表、(單位千留))

シンジケート名	一九三二三年 前年に 對する 金額 %	同三二四年 前年に 對する 金額 %	同三二五年 前年に 對する 金額 %	同三二六年 前年に 對する 金額 %	同三二七年 前年に 對する 金額 %
纖維工業	三、七六六	一〇〇	三、四六三	三、四六三	一、五三三
皮革工業	三、〇〇〇	一〇〇	一、八三五	九、九六九	三、八〇〇
金屬工業	七、六四四	一〇〇	一、九〇三	二、六〇〇	三、八〇〇
農具工業	三、七六六	一〇〇	三、九六六	一、二六〇	一、五三三
ウラル金屬工業	一、九〇六	一〇〇	六、三五六	三、七七一	九、一〇三
硫酸工業	五、六九五	一〇〇	一、六二〇	二、六六〇	三、一七七
石油事業	二、六〇〇	一〇〇	一、五二八	二、八三四	一、八三三
食鹽工業	三、九七七	一〇〇	三、一〇五	一〇、〇〇〇	二、六〇〇
油脂工業	—	—	六、〇〇元	—	三、〇七九

種別	年別	國營工業	内シンジケート	總生産高に	シンジケートの	全工業土
		全生産高	化したもの	に對す%	に對す%	對する%
織維工業	一、二五九、一六六	一、八一八、三〇〇	一、五五六、九五三	八五、五	一一、二六	七二、四
	二、一四八、三〇〇	一、九三四、三〇〇	九〇、〇	一、五四二、二一五	七九、七	七二、一
合 計	四一、一七四	一〇〇、七〇九	一、九、〇	一、五五五、五	二、〇、〇	一、五、一

シンジケートの取扱高増加と正比例して、工業生産品販賣に於ける重要味を加へつつある、全工業界の生産品にして市場に販賣せらるるものの七七%はシンジケートの品物である、而しシンジケート生産品の販賣高は其製品の九〇%を占めて居る。

各工業門に付て見ると販賣のシンジケート化は、工業そのもののシンジケート化に比して平均に行はれて居ない、左に之か大体を表示する。(第三表) (單位千圓)

種別	年別	國營工業	内シンジケート	總生産高に	シンジケートの	全工業土
		全生産高	化したもの	に對す%	に對す%	對する%
皮革工業	同五、一六六	二九六、五〇〇	一三四、五九〇	七九、五	一五三、四〇〇	六五、五
	同六、一七〇	三三五、四〇〇	二九三、八九一	八七、五	一九六、三八四	六七、一
金屬工業	同六、一六六	九〇六、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四四、〇	二五九、一〇〇	六四、八
	同六、一七〇	一、一六〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	七七、五	五八五、五〇〇	六五、二
硝子工業	同五、一六六	七九、五五五	七〇、二〇七	八八、二	三一、八〇〇	四五、三
	同六、一七〇	一一二、〇〇〇	八七、七五〇	八〇、〇	五一、七七一	五九、〇
陶磁器工業	同五、一六六	三三三、二一六	三三二、五三一	九七、六	二一、五〇〇	六六、二
	同六、一七〇	四三三、三〇〇	三九、七〇〇	九八、〇	二六、五五三	六六、八
石油工業	同五、一六六	三四七、〇〇〇	二四七、〇〇〇	一〇〇、〇	三四七、〇〇〇	一〇〇、〇
	同六、一七〇	三九二、〇〇〇	三九二、〇〇〇	一〇〇、〇	三九二、〇〇〇	一〇〇、〇
食鹽工業	同五、一六六	三八、二〇〇	三八、二〇〇	一〇〇、〇	三七、六八二	一〇〇、〇
	同六、一七〇	三八、八〇〇	三八、八〇〇	一〇〇、〇	三八、八〇〇	一〇〇、〇
製油工業	同五、一六六	九九、三〇〇	七四七、二〇〇	七五、三	四九、八四〇	六六、六
	同六、一七〇	一〇一、九〇〇	八四、六九二	八二、五	六五、〇〇〇	七六、八
油脂工業	同五、一六六	七七、六〇〇	三四、四八四	四四、四	四、一五二	一一、〇
	同六、一七〇	一一〇、五〇〇	五三、七二二	四八、五	一〇、〇〇〇	一八、六

葉煙草	同五十六年	五二、〇〇〇	二二、九五〇	四五、〇	一一、七三一	五一、一	三七、六
工業	同五十七年	六三、四〇〇	三〇、四〇〇	四七、九	二一、六五四	七一、三	三四、二

燐寸工業	同五十六年	四八、四〇〇	四一、五八九	八五、九	五、三五七	一一、九	二八、三
	同五十七年	五一、八〇〇	四八、二五一	九三、一	一四、六八八	三〇、四	
澱粉工業	同五十六年	一六、七〇〇	一五、二〇〇	八九、九	一一、〇六五	七四、〇	六六、三
	同五十七年	二二、八〇〇	二一、一〇〇	八八、七	一、一五九	九五、〇	八四、〇

計	同五十六年	三、八二八、四七一	二、八八三、四二四	七五、五二、〇五九	七三九	七一、五	五三、五
	同五十七年	四、六〇三、九〇〇	三、九四四、六九七	八五、六三、五六三	九二四	九〇、一	七七、五

右表の示す通り販賣のシンジケート化は生産工業自体のシンジケート化に比して不成績である。シンジケートは其組織の當初に於ては、受入たる工業製品を各自に所屬する販賣機關を通じて賣捌いた如斯手段を採りたる第一原因は、其當時出來上りたる許りの國營又は組合營の販賣機關が經濟的に微力であつた事、及第二にシンジケート自身が販賣機關より急速に資金を回收する目的を以つて常に各自の販賣網を發達せしめんとする傾向が多かつたのに依るものである、且つシンジケートと他の販賣機關との間には確定的の計畫及確定したるシステムが無かつた。

一九二四―二五年に至つて初めて國營及組合營販賣機關は組織財政の兩方面共に若干強固の度を増し、従つてシンジケートとの間にも一定の計畫的の受授をなし得るに至つた。

同年シンジケートと購買組合との間に試験的に結ばれたる基本契約は、此組織の適當なる事を十分に証明した、基本契約組織と平行して購買組合及地方商業部との模範協定調印も増加した。

一般的の販賣組織とシンジケートの相互關係は、個々の社會的商業部が販賣の役割を演ずる點に於て特徴がある、左表はシンジケートの取扱店として扱ひたる役割を示すものである。(第四表)

(單位千留)

シンジケート	年	別	取扱年額	各取扱者の分	國營機關の%	購買組合の%	個人の%	直營店の%
纖維工業	一九二二―二三	年	七三、七六六	一	一	一	一	一
	同二三―二四	年	二五五、九三六	二二、七	四三、八	一三、四	〇、一	
	同二四―二五	年	五四九、三〇七	二三、三	四九、〇	一六、三	一一、〇	
	同二五―二六	年	一、二二六、一六二	二六、五	六〇、六	六、三	六、五	
	同二六―二七	年	一、五四二、二一五	三〇、八	六二、一	四、六	二、五	



計		漁獲事業		鑄造事業		製粉事業	
同	同	同	同	同	同	同	同
二六、二七	二五、二六	二六、二七	二五、二六	二六、二七	二五、二六	二六、二七	二五、二六
三、六一、九九六	二、六六〇、六一三	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇一	一四、六八八	五、三五七	一九、一五九	二、一三〇
三九、五	三七、六	一一、三	八、四	六一、五	四五、〇	六四、八	三八、七
五〇、一	四八、〇	六六、五	五三、三	二五、〇	五〇、〇	一七、〇	五四、七
七、四	八、五	一六、二	二七、四	三、五	五、〇	一八、二	四、八
二、三	七、〇	五、九	七、五	一、一	一、一	一、一	一、一

護謄事業		砂糖事業		葉煙草工業		油脂工業	
同	同	同	同	同	同	同	同
二六、二七	二五、二六	二六、二七	二五、二六	二六、二七	二五、二六	二六、二七	二五、二六
一四六、二〇〇	一二八、四二三	五八〇、三七二	五二九、四四〇	二一、六五四	一一、七三一	四、八二二	七五、〇〇〇
三三、一	四〇、九	一八、七	三一、五	二一、九	一七、六	四〇、三	六二、二
五二、七	三九、五	六五、四	五一、一	六六、九	七八、三	五三、三	三一、二
三、五	五、九	一五、九	一二、四	一一、二	三、八	三、二	二、〇
九、五	一二、八	一、一	五、〇	一、一	一、一	一〇、四	四、六

(分布%中百に満たざるものは代理店等の不明なるものあるに依る)

右表に依つて見ると販賣數量は國營及購買組合營の取扱店の分が増加し居る事を知るに足る。

シンジケートの生産品中の販賣高九三%は國營及購買組合機關の取扱ふ處である、國營機關の取扱高は數年間を通じて平均的に増加して居るのに購買組合賣店の取扱高は極はめて急速に増加して居る、即ち現在ではシンジケート取扱高の約五〇%が組合の取扱に歸して居て、それだけ個人の取扱高が減少して居る。

此種國營及組合營機關の財政方面強固の度を加ふに従つて、シンジケートは益々卸賣機關としての特徴を帯ぶるであらう、シンジケートは益進んで卸賣店の數を増し、以つて地方の賣店の便を計るべく、同時に自らも小賣に手を染めるに至るであらう、此種機關の勃達に伴ひてシンジケートと國營及組合營賣店との間には、計画的の連絡を探る事が出来るのである、既に購買組合は六〇%迄は基本契約に依つて賣品の供給を受けて居る、左表は基本契約に依つて購買組合に供給さるるシンジケート製品の額を示すものである(第五表)(單位千留)

種別	一九二五—二六年		一九二六—二七年	
	契約總金額	シンジケート取扱に對する%	契約總金額	シンジケート取扱に對する%
纖維工業	三七六、八〇〇	三三、四	六五八、八〇〇	四〇、三
皮革工業	七、二〇〇	四、七	四四、〇〇〇	二二、四
金屬工業	九〇〇	〇、七	—	—
ウラル金屬工業	一六、二〇五	一二、六	四五〇	〇、三
農具工業	—	—	一七、八二七	四、八
硫酸工業	七、五〇〇	一三、九	一〇、二〇〇	一三、四
葉煙草工業	七、〇〇〇	五九、六	五、〇〇〇	二二、六
油脂工業	—	—	六、八五〇	九、一
砂糖事業	二二一、三〇〇	四〇、〇	二五六、〇〇〇	四四、二
護謄事業	一二、四〇〇	九、七	四一、〇〇〇	二八、一
食鹽事業	二六、〇〇〇	五八、〇	三〇、〇〇〇	七九、〇
				一〇〇、〇
				七三、〇
				三三、七
				三九、〇
				三八、〇
				五〇、〇
				三六、〇
				八三、〇
				五〇、〇
				一〇〇、〇

石油事業

計

三八、〇〇〇 一五、二一〇、〇〇〇 五〇、〇〇〇 一八、四一〇、〇〇〇  
 六七九、九〇五 二六、二五四、一、二二〇、二二七 三、〇〇〇 六〇、九

基本契約は目下組合賣店に賣品を供給する主要形式となつて居る。

シンジケートが購買組合に賣品を供給する%は左表に依つて知る事が出来る。第六表(單位千留)

一九二五年		一九二五—二六年		一九二六—二七年	
金額	%	組合の總 購入高	金額	%	組合の總 購入高
二七二、二〇三	四〇〇	八三、三六七	六六、三六五	八二〇	一、一〇、〇〇〇
四三、七四五	七〇、三	一五、二二四	九、三九九	六三	一四、二〇〇
三、三五五	五、三	一〇九、八六八	五、〇九二	五九、四	二四、二〇〇
二、八八四	七、九	二五、九八八	三、七二二	九、五	二五、五〇三
一〇、六四七	六、五	四三、七三三	四、四四三	九〇	五、三三〇
二〇、四七二	八〇、四	二五、六六九	二、二〇四	六、五	二九、四〇〇
四、四四五	一七、七	元、八九九	二、三二〇	二六、四	七、五九〇
一、二七七	二、〇	三、三三四	二、八二八	二五、二	一一、四〇〇
一六三、四四四	一〇〇、〇	二九、五五三	二九、五五三	一〇〇、〇	三三、〇〇〇
二八、一五二	一〇〇、〇	五、一三〇	五、一三〇	一〇〇、〇	七、八〇〇
一三、六七三	二七、三	二七、三六六	九、〇六三	三三、二	四〇、四〇〇
一、三六七	九、八	二、三九三	二、三六一	九九、〇	一、八〇〇
六七、五五二	五、八	一、五五四、一七四	一、七五五、四六七	八二〇	二、二六、二二〇
					一七五〇、四四〇
					八三、一

基本契約は目下組合商店に賣品を供給する主要形式となつて居る。  
 シンジケートが購買組合に賣品を供給する%は左表に依つて知る事が出来る。第六表(單位千留)

品目	一九二二—二四年			一九二四—二五年			一九二五—二六年			一九二六—二七年		
	組合の總 購入高	内シンジケートよ 金額	%	組合の總 購入高	内シンジケートよ 金額	%	組合の總 購入高	内シンジケートよ 金額	%	組合の總 購入高	内シンジケートよ 金額	%
纖維製品	三二、三三	一四、七九	五三、四	五〇〇、四九	二七、二四三	五〇	八三、三七	六〇、三六	七二	一、二九〇、〇〇〇	九六、〇〇〇	八、二
皮革	二、七九〇	一六、〇〇〇	五九七	六〇、九一九	四、二七五	七、三	一五、二四	九〇、三五九	七三	一四、二〇〇	一一、五〇〇	七、三
金物	二、六七二	一六、一五五	五〇、五	五、三三七	三、三五五	六三、三	一〇九、八六八	五五、〇九二	五〇、四	二四、二〇〇	九、五〇〇	三、九
硝子、 陶磁器	一一、二四〇	六、五五〇	五八、四	一六、五三三	二、八八四	七、九	二五、九五六	三三、七二一	一三、三	二五、五〇〇	三、四〇〇	一、三
石油	一三、一八一	三三、〇〇〇	六九七	二二、〇〇〇	一〇、六四七	六、九	四、七六三	四三、四四二	九〇	五、五〇〇	五、五〇〇	一〇〇、〇
食鹽	一八、三三〇	一四、三〇〇	七、五	二五、五五五	二〇、四七一	八〇、四	二五、三一九	二五、二〇四	九、五	二九、四〇〇	二九、四〇〇	一〇〇、〇
油	一一、八〇六	六、九	八、二	二四、五九九	四、二四五	一七、七	三九、八〇九	一一、三〇〇	二、八	七、九〇〇	三、四〇〇	三〇、九
磷寸	五、一〇一	一	一	一〇、五九二	一、一七七	一一、〇	二、一三四	二、八八八	一、三	一一、四〇〇	五、一三〇	四、八
砂糖	七、七三〇	七、七三〇	一〇〇、〇	一六三、五五四	一、二、五五四	一〇〇、〇	二、九、五九三	二、九、五九三	一〇〇、〇	三、五三、〇〇〇	三、五三、〇〇〇	一〇〇、〇
護謨類	九、九九九	九、九九九	一〇〇、〇	二、一、五二一	二、一、五二一	一〇〇、〇	五、一、三三〇	五、一、三三〇	一〇〇、〇	七、八〇〇	七、八〇〇	一〇〇、〇
葉煙草	七、七六七	二、五七〇	三三、〇	一三、四三三	一、三、六七三	二七、三	二、七、三六六	九、〇六一	三三、二	四〇、四〇〇	一、四、七五〇	三、六、五
澱粉	二、五三	一一	四、九	一、四四〇	一、三、六七	九、九	二、三、九三	二、三、六一	九、〇	一、八二〇	一、四、七〇	八〇、八
計	四三三、七六五	二七、七一九	六、四、二	九三三、八八一	六七、七五二	六、五、八	一、五、五四、一七四	一、一、七〇、四六七	八、二、〇	二、二、六、二二〇	一、七、五〇、九四〇	八、一、二





シンジケート  
種別

一九二三年十月一日  
一九二四年十月一日  
一九二五年十月一日  
一九二六年十月一日

種別	一九二三年十月一日	一九二四年十月一日	一九二五年十月一日	一九二六年十月一日
織維工業	支店 二五 代理店 一二 小賣店 七	同上 同上 六八	同上 同上 七一	同上 出張所 二二
皮革工業	支店 二四 代理店 四四	同上 同上 八	同上 同上 一〇	同上 同上 四八
石油事業	地方事務所 一八 集結地 七三〇 小賣店 一四三一	同上 同上 五七一	同上 同上 五五四	同上 同上 五九六
珪酸工業	支店 一三	同上 一四	同上 一七	同上 一九
食糧事業	地方事務所 一三 縣代表 三九 小賣店 三七四	同上 同上 六七	同上 同上 五九	同上 同上 三

ウラル金屬工業

支店 一二	事務所 一三 小賣店 五	同上 一二 同上 二五	同上 一二 同上 三六	同上 一五 同上 二五
事務所 一二 賣店 七	同上 一五 同上 一四	同上 一四 同上 一四	同上 一四 同上 一四	同上 一四 同上 一四

金屬工業

支店 一二	事務所 一三 小賣店 五	同上 一二 同上 二五	同上 一二 同上 三六	同上 一五 同上 二五
同上 一二	同上 一五 同上 一四	同上 一四 同上 一四	同上 一四 同上 一四	同上 一四 同上 一四

油脂工業

支店 一	支店 二〇	同上 九	同上 九	同上 九
同上 一	同上 一〇	同上 一	同上 一	同上 一

獸脂工業

支店 二	事務所 三 代理店 三	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九
同上 二	同上 三 同上 三	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九

澱粉工業

支店 一	事務所 三 代理店 三	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九
同上 一	同上 三 同上 三	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九	同上 九 同上 九

葉煙草工業	代表	四	同上	三	代表	二	事務所	八
	小賣店	二	同上	一	同上	一	購入事務所	六
漁撈事業	組合賣店	三	支店	二	事務所	及支店	小賣店	四二
		一						二七

國管取引機關、就中購買組合機關の發達につれて、シンジケートは其直營の取引網を縮少する事が出來た、殊に國家が取引機關の合理化を計り、其活動範圍を擴大するに伴ふて益々シンジケート直營取引の必要が無くなつて來た。

#### 第四章 シンジケートの取引經費

シンジケートの取引經費シンジケートは其手中に多量の商品を掌握すると共に益々卸賣機關としての意義を増大して來る、而して其業務は根本的に國管及組合營の取引機關を通じて多量の商品市場に出す事に傾注されるのは當然である。

此状態はシンジケートの取引機關をして大量物品の第二次的取次業務に従ふの煩を避けしむると

同時に、シンジケートと國管及組合營機關との連絡が密接の度を加へ、其連絡は益々計畫性を確立した爲め、物資配給上完全なる形式を探るに付て不安を一掃する事が出來るに至つた、従つて物品の配給を圓滑ならしめ、諸掛を節約する事を得せしめた、諸掛費の移動は左の如くである。(第八表)(單位千圓)

項目	一九二四—二五年	同二五—二六年	同二六—二七年	同二七—二八年
取引年額	一、六三、二二四	一、二七、三三七	一、三六、〇〇〇	一、四〇、〇〇〇
取引年額に對する經費%	—	—	—	—
取引年額	六七、五二四	九七、八八三	九〇、四八三	九二、四〇〇
取引年額に對する經費%	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
内 譯				
給料	二四、一〇六	三六、五六一	三三、三〇八	三二、二四〇
借家賃	七、七三二	九、三九二	八、七七一	九、六八〇
其他	三五、九	三六、〇	三六、〇	三四、〇
合計	一、一四	九、三	一〇、〇	一〇、〇

納税	一三、三〇〇、八二	一六、五四一〇、六一	一六、六六九〇、四六	一七、六〇〇〇、四〇
%	一九、八	一八、四	一八、〇	一九、〇
借入金利子	五、八八二〇、三六	一〇、七七八〇、四〇	一九、四七一〇、五三	二二、二二〇〇、四八
%	八、六	一一、〇	一一、〇	一一、〇
其他	一六、五七四一、〇二	二四、六七九〇、九〇	一三、三三三〇、三六	一一、七六〇〇、二九
%	二四、一	二四、三	一五、〇	一四、〇

前表に示したるが如くシンジケートの取引額は年と共に増加するに反比例して取引諸経費は減少して居る、其減少は借入金利子を除外の各項目を通じて認め得る處である、就中一九二四—二五年に比して二八—二九年度には五〇%の減額である。

此取引経費の減少は其額は必ずしも同一ではないか、各シンジケートを通じて一様に認めらるる處である、而して此程度は自ら倉庫を設けて直營をなし居る者に比して、國營及組合營取引機關を利用し居るものの方が多額の経費節減をなし得るは當然である、諸シンジケートに付ての取引諸経費の総合的狀態は第九表の如くである。(第九表)(單位千留)

シンジケート 種別	年別	取引高	経費年		給料	借家賃	納税	借入金利子	其他
			額	總取引額に對する%					
纖維工業	一九二四—二五年	八、一、一、四六	三、一、四、五五	二、五、〇、〇〇	〇、三、〇、〇〇	〇、七、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、一、一、一六
	二五—二六年	一、四、九、〇、五五	六、四、四、八八	一、八、〇、〇、〇〇	〇、三、〇、〇、〇〇	〇、三、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇
	二六—二七年	二、二、五、四、九一	二、五、四、七、七一	一、二、〇、〇、〇〇	〇、七、〇、〇、〇〇	〇、一、一、〇、〇〇	〇、二、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇
皮革工業	二四—二五年	一、九、六、六、一一	一、三、四、七、四四	六、二、六、一七	〇、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇、〇〇
	二五—二六年	三、三、三、三、三三	一、七、一、七、一七	五、三、三、三三	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇	〇、〇、〇、〇〇
	二六—二七年	三、〇、〇、〇、〇〇	一、五、四、四、〇〇	四、六、六、六六	〇、六、六、六六	〇、六、六、六六	〇、六、六、六六	〇、六、六、六六	〇、六、六、六六
金屬工業	二四—二五年	五、五、一、〇、〇〇	四、〇、七、九、〇〇	七、四、〇、二、七九	一、〇、〇、一、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇
	二五—二六年	三、三、〇、〇、〇〇	九、八、四、八、〇〇	八、〇、〇、〇、〇〇	二、〇、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇	一、〇、〇、一、〇、〇〇
	二六—二七年	一、五、五、〇、〇〇	九、三、四、六、三三	六、三、三、三三	一、八、〇、〇、〇〇	一、三、三、三三	一、三、三、三三	一、三、三、三三	一、三、三、三三
ウラル金屬工業	二四—二五年	一、三、三、九、六六	二、六、四、一、二四	二、〇、七、五、〇〇	〇、五、〇、〇、〇〇	〇、五、〇、〇、〇〇	〇、五、〇、〇、〇〇	〇、五、〇、〇、〇〇	〇、五、〇、〇、〇〇
	二五—二六年	一、七、五、五、五五	二、六、四、一、二四	一、六、〇、七、二二	〇、七、二、二、〇〇	〇、七、二、二、〇〇	〇、七、二、二、〇〇	〇、七、二、二、〇〇	〇、七、二、二、〇〇
	二六—二七年	四、五、〇、〇、〇〇	四、一、〇、六、一〇	〇、九、一、〇、九一	〇、四、一、〇、九一	〇、四、一、〇、九一	〇、四、一、〇、九一	〇、四、一、〇、九一	〇、四、一、〇、九一

事業	年次	資産	負債	純資産
硫酸工業	二四―二五年	三,一五	二,六三	八,九三
	二五―二六年	天,五八	五,〇三	八,九三
	二六―二七年	八,〇一	四,五三	三,四八
石油事業	二四―二五年	二,四〇	三,〇四	三,六六
	二五―二六年	二,七五	三,八八	三,八八
	二六―二七年	三,〇〇	三,一〇	三,一〇
食鹽事業	二四―二五年	二,六三	二,〇〇	八,三三
	二五―二六年	天,六一	二,〇〇	六,〇〇
	二六―二七年	天,五三	一,九三	三,七〇
油脂工業	二四―二五年	三,〇五	四,四二	二,〇〇
	二五―二六年	天,六七	一,八四	三,五二
	二六―二七年	八,〇〇	一,五二	一,八五
燐寸工業	二四―二五年	三,八九	九四	二,四二
	二五―二六年	八,八五	一七	二,四〇
	二六―二七年	一八,〇〇	二六	一,〇三

事業	年次	資産	負債	純資産
砂糖事業	二四―二五年	五,〇〇	四,四二	一,一三
	二五―二六年	五,〇〇	八,六二	一,〇三
	二六―二七年	五,〇〇	七,三五	一,三〇
護謨事業	二四―二五年	八,四七	五,三三	五,三三
	二五―二六年	二,四三	六,五八	五,〇〇
	二六―二七年	一,四〇	五,五〇	三,一〇
澱粉事業	二五―二六年	二,〇五	三,七〇	一,六五
	二六―二七年	一,七〇	二,五八	一,八八

### 第五章 シンジケートの資産状態

シンジケート組織當初の資産は定款による株式基本金を集むる爲めに拂込まれたる加入事業の拂込金及最高國民産業委員会の特別資金中よりシンジケートに譲渡せられたるものから出来て居た、シンジケートの株式基本金は定款に依つて定められて居て、株式主が一定の期限内に貯出する事に定められて居る。

一九二三年十月一日現在定款に依る株式基本金額、加入事業の既拂込額及最高國民産業委員會の交附額は左表の如くである。(第十表)(單位金留とす)

シンジケート種別	定款金	拂込高	其%	交付金	%
織維工業	一二、〇〇〇、〇〇〇	七、七六六、三四五	六四、七	一、三〇六、五一〇	一〇、九
ウラル金屬工業	六、〇〇〇、〇〇〇	一、四〇六、二五〇	二三、四	—	—
金屬工業	三、〇〇〇、〇〇〇	五二七、五三四	一七、六	四二五、〇〇〇	一四、二
皮革工業	六、〇〇〇、〇〇〇	四、六九八、一六七	七八、三	三、〇三九、三九四	五〇、七
食鹽工業	一、八九六、〇〇〇	一、八九六、〇〇〇	—	—	—
硫酸工業	一、五〇〇、〇〇〇	七二五、三四四	四七、七	一七九、九二一	一二、〇
葉煙草工業	六〇〇、〇〇〇	五九三、七五〇	九九、〇	五七、八二二	九、五
燐寸工業	五〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	四二、〇	—	—
植物油工業	三〇〇、〇〇〇	二二、八一三	七、三	—	—
獸脂工業	三三〇、〇〇〇	一一八、一三八	三五、八	—	—

計 三三二、一二六、〇〇〇 七、九五三、三四八 五六、〇 五、〇〇八、六三七 一五、六  
 初期のシンジケートは右の如き極はめて貧弱なる資金を以つて業務を開始したものであるが、工業方面の移援に依つて充分に活動する事も出来、又益々發達する事が出来た、且つ各種の借入金を利用する事が出来た爲め、聯邦の國民産業上に於て相當の位置を占むる事が出来た、シンジケート資産の發達状態は左のバランスに依つて見る事が出来る。(第十一表)(單位千留)

資産の部	一九二四年十月一日	一九二五年十月一日	一九二六年十月一日
(一) 不動産の部	一九二四年十月一日	一九二五年十月一日	一九二六年十月一日
(イ) 不動産	三八、九一〇	六、一	四九、六八九
(ロ) 持株及株券	七、〇一〇	一、一	一七、九九九
(ハ) 其他資産	四、六八二	〇、七	一五、〇八一
小計	五〇、五四八	七、九	八二、七六九
(二) 動産ノ部			
(イ) 貨物	二四〇、二五八	三八、一	二五五、五九〇
			二六、〇
			二三七、五二九
			二七、〇

(ロ) 現金 勘定	二八、七四二	四、五	五八、五二〇	五、九	五四、七〇四	四、四
(ハ) 貸付金	一六二、九五〇	二五、六	二五九、八七一	二六、五	三二二、三五三	二五、八
(ニ) 受取手形	一二六、〇三二	一九、八	三〇一、七八一	三〇、七	三九一、一一六	三一、四
(ホ) 其他	二七、七八八	四、一	二三、一九七	二、五	三一、四〇六	二、六
小計	五八五、五〇〇	九二、一	八九八、九六〇	九一、六	一、二三七、三六	九一、二
バランス	六三六、〇四八	二〇〇、〇	九八一、七二九	二〇〇、〇	一、二四六、五三	二〇〇、〇

負債の部

(一) 資産の部	一九二四年十月一日	一九二五年十月一日	一九二六年十月一日
(イ) 株金、交付金、準備金	一五九、四〇三	二五、〇	一八八、〇九六
(ロ) 利益金及 収入金	一四、八六四	二、三	一五、九三八
小計	一七四、二六七	二七、三	二〇三、九九四
(ニ) 借入金	一七四、二六七	二七、三	二〇三、九九四
(イ) 長期借入金	四三、二〇二	六、八	四一、五〇五
			四、二
			三五、一七九
			二、七

(ロ) 銀行短期借入金	五三、七四四	八、四	二八、五一三	二、九	二九、二七九	二、四
(ハ) 支拂手形	二五、五六七	四、〇	一一一、七七一	一一、四	一四三、〇三三	一一、五
(ニ) 商品擔保借入金	一七、一一一	二、七	四六、四四八	四、七	四七、二七七	三、八
(ホ) 手形及證券擔保借入金	五、八八一	〇、九	二八、八一三	二、九	二五、三三三	二、〇
小計	一四五、五〇五	二二、八	二五七、二五〇	二六、一	二七九、〇八六	二二、四
(ヘ) 交付を要する手形	一〇五、九一六	一六、六	二二九、三二五	二二、四	三一一、三七四	二五、〇
(ト) 借入金	二〇八、六七八	三二、八	二六一、一二四	二六、六	三四八、九八四	二八、〇
(チ) 其他負債	一、六八二	〇、五	三〇、〇三六	三、三	四九、〇〇六	四、〇
小計	四六一、七八一	七二、七	七七七、七三五	七九、四	九八九、四五〇	七九、四
バランス	六三六、〇四八	二〇〇、〇	九八一、七二九	二〇〇、〇	一、二四六、五三	二〇〇、〇

右表に依る時はシンジケートの取引資金は非常に増加した事を知るに足る、且つ其財政上の根拠が他人の資金を引出せるもの最も多きを知るのである、シンジケート取引資金中自己の資産は一九二四年十月一日には二二%に當つて居たが、一九二六年十月一日には二二%に減じて居

る、取引中に於ける自己資金の参加率減少したる事は、或點迄は資産の不動産化したるに依り、五〇%を越して居る。

個々のシンジケートに付て見るに此關係は大體左の如くである(第十二表)(單位十留)

種別	一九二四年十月一日		一九二五年十月一日		一九二六年十月一日	
	取引に用ひたる總資金	自己資金%	取引に用ひたる總資金	自己資金%	取引に用ひたる總資金	自己資金%
織維工業	二四八、三五	七、九	四〇二、三三	四、九	四七六、五五	五、九
皮革工業	一、三七七	一五、九	一〇五、七六	五、四	一四〇、三八	五、四
金屬工業	三、八七	二六、二	七、八	七、九	一、八八	一三、八
ウラル金屬工業	三、二九	一三、九	四、五二	一〇、一	七、〇三	一、六
農具工業	九、七四	六、六	三、五七	四、八	三、五二	四、九
硫酸工業	八、四二	九、五	九、五	一〇〇、〇	四、三七	三、一
石油工業	一、九、二四	四、五	一、九、五〇	四、九	三、七、八三	五、八

食鹽工業 一九、三三 一〇、三 八九、七 二〇、四五 五、六 九四、四 二六、一三 七、九 三二、一

燐寸工業 — — — — — 一、九八〇 五、四 九四、六 二、七四 五、二 九四、八

葉煙草工業 二、三〇一 一七、七 八三、三 二、八八 一〇、九 八九、一 四、七六 一四、一 八五、九

油脂工業 三、四六九 一三、九 八六、一 一、四九一 八、二 九一、八 二、三八五 四、五 九五、五

計 一、九、四六〇 三二、一 一、九、九 八六、九五 三、五 八六、五 一、二、六二八 三、一 八七、八

此表に依ると總取引資金中自己の資金の役割が如何に少ないかを知る事が出来る、只石油シンジケートのみは之に反して相當に平均して居る、如此シンジケートの資金の分野が借入金金を以つて重きをなして居る事は、シンジケートが今日尙其業務状態の健實を欠いて居る事を實証するものである。



## 蘇聯邦購買組合

### イリイン述

#### 第一章 概 説

サウエート十月革命から新經濟政策施行迄の間に於ける購買組合の發達は組合取引の形式から純分配機關の役割を演ずる方面に偏して居た、戰時共產主義時代に合法的なる個人取引を全然徹廢した事及び總ての工業品及生産農産物を國家の手中に掌握したる事は、廣範圍にして強力なる國營分配機關の設置を要求し、此の要求を滿したるものは購買組合である、即ち各公民の居住地點に從つて一定の購買組合に加入せしめ、組合が糧食委員會より受くる諸物資を組合員に供給する業務に當つた、糧食分配を實施した事は其反面に於て購買組合をして獨立して物資を購入するの權利を失墜せしむるに至つた、如何となれば、農産品の大部分は、糧食委員會に依つて直接購入され、又分配されて居たからである。

新經濟政策の施行に伴つて、組合は食糧分配の役割を輕減され、個人が其業務を開始するを許さ

さると共に、組合は一定の加入者に物資を供給する使命及組織的に市場から個人商業を放逐する使命を課せられた、此新使命は同時に新組織形式を要求した即ち純然たる購買組合組織に還元する事である、換言すれば、各人の自由意志に基く加入及脱退を許す事自己の財政上の根本を作る事即ち加入金及組合費を徴収する事、取引の復雜なるに適合する様に組合の取引機關を改造する事等が此主なる事である。

一九二四年の幣制改革は國家萬般の産業生活に生氣を與へ、購買組合に對しても劃期的の成績を擧げさせた、即ち購買組合は一面に於て個人商業と相當激烈なる競争を持續しつつ、一面に於ては經濟管區に從つて組織を改造し住民の組合加入を増し、市場を占有し經費を節約し、遂に國內に於ける最も普及したる物資取引機關たるに至らしめた。

#### 第二章 組合網、賣店、出資者

一九二二—二四年度に購買組合は共和國、洲、地方聯合會七、民族聯合會三十九、蘇聯聯合會十七、管區聯合會百八十七を組織し、一九二七年には共和國洲地方聯合會十一、管區及民族聯合會二百八

を算した、而して一九二三―二四年上記の聯合會に加入して居る購買組合数は二万二千六百二十一であつたが、一九二七年十月一日には二萬八千六百十六組合となり、二六%五の増加であり、所屬小賣店の數は此期間に九一%六の増加で、株主は七百二十萬九千人から一千五百七十四千人百人即ち一一%三の増加で、結局此期間に加入労働者及農民の數は倍になつて居る、ソウエー卜の活動家が購買組合に能動的に参加した事は、彼等が拂込んだ株金に依つて見る事が出来る、即ち一九二三―二四年度に拂込まれた額一千五百九十万留なりしに、一九二七年十月一日には八千七百七十萬留になつた事、即ち五倍半の増加を示した事が之を證據立てて居る。(第一表)(單位株主單位千人、資本單位千留)

年別其他	共和國、管民族聯合會		各種購買組合數	小賣店加入者數	拂込金額	一組平均店數
	州地方聯合會	區聯合會				
一九二一―二二年	1	26	15,079	23,474	1	1
同 二二―二三	1	26	19,121	29,699	1	1
同 二三―二四年	7	234	33,232	77,239	7,290,154,900	16
同 二四―二五年	11	310	55,255	151,474	9,476,033,666	210

同 二五―二六年	11	101	80	26,666	33,767	48,060	211
同 二六―二七年十月一日	11	208	266	71,122	150,741	87,710	212
同 二六―二七年の二三―二四年に對する%	1	1	265	191,6	211,3	552,11	150,0
同 二七―二八年の豫想	11	333	266	73,32	168,92	211,500	217

### 第三章 購買組合の使命

蘇聯邦の國內總取引額中各種組合の活動%は一九二三―二四年の二八%から二六―二七年の五〇%六即ち約二倍に増加した、右五〇%六中三五%六は購買組合の分であつて、此期間内に四倍半の増加を示して居る、従つて發展の歩調に於ても、取引數に於ても個人商業は勿論國營商業をさへも追ひ抜いたわけである。(第二十表)(單位百万留)

年別其他	組合の貨物取引高		其中購買組合		國營商業		個人商業	
	總取引及仲介額	各種組合	金額	%	金額	%	金額	%
一九二三―二四年	9,766	100.0	2,755	28.0	1,799.0	18.0	3,036.0	31.0
			26,0	2.6	3,966	41.0		

二四―二五年	一四、三七	100.0	五、七六、四	元、八	三、八〇、六	二、六、七	四、六五、二	三、四	四、〇〇〇	二七、八
二五―二六年	三、三三、三	100.0	10、一七、六	四、六	七、〇五、三	三、三	七、七六、六	三、六	五、七〇	二四、八
二六―二七年	元、四、七	100.0	一四、一五、〇	五、六	10、〇〇、〇	三、六	八、六九、一	三、〇、九	五、二〇〇	一八、五
二六―二七年の二三―二四年に對する%	二六、一	—	五三、八	—	五、六、一	—	二、六、四	—	一、三、四	—
二七―二八年の豫想額	三、〇、〇	100.0	一八、〇三、〇	五、〇	三、五、三、三	三、四	九、五八、〇	二、九	二、五、三、〇	一五、八

農産品購入方面に於ては下記第三表に示すが如く、購買組合は國營購入機關・佐して重要な位置を占めて居る。(第三表)

購入品種別	一九二三―二四年		一九二四―二五年		一九二五―二六年		一九二六―二七年	
	總購入高	内購買組合の分	總購入高	内購買組合の分	總購入高	内購買組合の分	總購入高	内購買組合の分
穀物百萬屯	五、三	一、〇五	五、三	二、一八	九、六	三、〇	一〇、六	三、九
%	100.0	19.0	100.0	40.4	100.0	30.9	100.0	27.3
亜麻百萬屯	八三、六	一六、四	二二五、〇	二四、五	一六五、六	三三、〇	九九、三	一九、四
%	100.0	19.6	100.0	19.6	100.0	19.0	100.0	19.6

手皮百萬留	三九、三	六、二	四二、七	六、四	四三、四	五、二	不明	不明
%	100.0	15.8	100.0	15.0	100.0	11.9	不明	不明
バター千屯	—	—	四二、六	三、三	四八、七	四、五	七二、七	六、〇
%	—	—	100.0	7.7	100.0	9.2	100.0	8.2
鶏卵貨車	四、五五〇	四九八	八、八四三	一、〇九七	七、二二八	七四五	二、五〇〇	一、九六〇
%	100.0	10.9	100.0	12.3	100.0	10.5	100.0	15.7
魚類千屯	三四二、五	二二、四	三六一、〇	一三、四	四五五、九	三七、二	六二、三	〇、六一、〇
%	100.0	6.5	100.0	6.5	100.0	6.8	100.0	9.7

(備考 一九二六―二七年購買組合中央聯合會は白露地方、ヤロスラウリ、ヲログダ方面の亞麻購入を停止せり)

購買組合が最も活動する方面は穀物購買であつて此點では國營購入機關に次で第二位にある、如斯組合は一方に於て穀物購入に努むると同時に、諸物資を一般住民に供給する方面及穀物の外國輸出方面にも多大の活動を爲して居る、即ち組合は内國市場に於ては一九二四―二五年度に六

百五十万ツエントネル、二六―二七年に於ては一千萬ツエントネルの穀物を買放つた、之を二四―二五年に比すると一二四%四の増加であり、此期間に組合が海外に輸出したる穀物は三十六万ツエントネルから三百八十万ツエントネルに増加して居る、即ち十倍半に達する成績である。

購買組合の一般的取引の發達に伴つて、主要工業品を住民に供給する方面の業務も非常に繁盛に赴いた、例へば織物に付て云ふ時は一九二四―二五年に需要の四〇%八を充したに過ぎないが、二六―二七年度には七二%八を充し得るに至り皮革及靴に付ては一六%六なりしに、三六%七に及び、金屬製品に付ては四三%六、石油は五〇%七、食鹽に付ては六〇%七を充し得るに至つたのである。(第四表)(單位百万留)

品目	年 度	住民需要高	購買組合取扱高	%
織物	一九二四―二五年	一、二二一、一	四九七、七	四〇、八
	同 二五―二六年	一、七三七、〇	九一〇、一	五二、四
	同 二六―二七年	一、七二〇、〇	一、三三五、八	七二、八
	同 二七―二八年	一、六七一、〇	一、三三七、〇	八〇、〇

品目	年 度	住民需要高	購買組合取扱高	%
皮革、靴	同 二四―二五年	六〇一、〇	九九、五	一六、六
	同 二五―二六年	五九三、〇	一六六、一	二八、〇
	同 二六―二七年	六三四、〇	一三三二、六	三六、七
	同 二七―二八年	六七四、〇	三〇〇、七	四四、六
砂 糖	同 二四―二五年	四四〇、四	一八五、六	四六、八
	同 二五―二六年	五六三、〇	三二六、二	五七、九
	同 二六―二七年	六一六、〇	四五〇、八	七三、二
	同 二七―二八年	六二六、〇	五二七、八	八四、三
食 鹽	同 二四―二五年	八七、三	二九、三	三三、五
	同 二五―二六年	九〇、九	三八、九	四二、八
	同 二六―二七年	八六、二	五二、三	六〇、七
	同 二七―二八年	七七、八	六二、〇	七九、七
石 油	同 二四―二五年	六九、一	二二、七	三三、三
	同 二五―二六年	九一、九	三八、三	四一、七
	同 二六―二七年	一〇〇、〇	五〇、七	五〇、七
	同 二七―二八年	一〇五、〇	六六、四	六二、二

工業別	一九二五—二六年		一九二六—二七年	
	生産高	組合契約高	生産高	組合契約高
纖維工業	一、四三四、二	三六三、三	一、六七五、六	六三〇、一
金屬工業	一六四、九	三三二、二	二三五、九	二八、二
硫酸工業	七、七	七、九	八五、八	一一、一
化學工業	一〇、九	四、八	一四、五	八、一
砂糖工業	四八三、七	一四一、三	五一四、〇	二二六、〇
皮革工業	二二八、三	七、二	二五八、六	四四、〇
護謨工業	八九、七	一二、四	一一七、九	四一、〇
葉煙草工業	五一、〇	七、〇	六三、四	八、九
製紙工業	二九、九	九、〇	三一、二	六、五
製油工業	四一、九	—	三七、八	六、八
計	二、六〇六、二	五八五、一	三、〇三四、七	一、〇〇〇、七
石油事業	五九、四	三八、〇	七五、九	四九、九

工業別	一九二五—二六年		一九二六—二七年	
	生産高	組合契約高	生産高	組合契約高
纖維工業	一、四三四、二	三六三、三	一、六七五、六	六三〇、一
金屬工業	一六四、九	三三二、二	二三五、九	二八、二
硫酸工業	七、七	七、九	八五、八	一一、一
化學工業	一〇、九	四、八	一四、五	八、一
砂糖工業	四八三、七	一四一、三	五一四、〇	二二六、〇
皮革工業	二二八、三	七、二	二五八、六	四四、〇
護謨工業	八九、七	一二、四	一一七、九	四一、〇
葉煙草工業	五一、〇	七、〇	六三、四	八、九
製紙工業	二九、九	九、〇	三一、二	六、五
製油工業	四一、九	—	三七、八	六、八
計	二、六〇六、二	五八五、一	三、〇三四、七	一、〇〇〇、七
石油事業	五九、四	三八、〇	七五、九	四九、九

右表に掲げた品目に付ては購買組合は重要な供給者であつた事を知り得る。日用工業製品を計画的に住民に供給する業務は國家の一般的産業の發達、就中購買組合の組織及財政方面の確立に伴ふて増加して來た、其最も明確なる現象として購買組合と國營工業との間に締結された一般的契約を擧げる事が出来る。(第五表)(單位百万留)

食糧事業 三三、八 二四、〇 七九、三 三四、四 三〇、三 八八、二

勿論購買組合の演ずる役割と住民一般に採つての重要味は必ずしも各地方同一であるとは云ふ事が出来ない、其重要味は常に其地方の購買組合の基礎の強固なる程度と正比例するものである左記第六表は全聯邦に付て平均なる数字を採つたものであるが、之に依つて充分に労働者の生活に對して購買組合の演じつつある役割を知ることが出来る。(第六表)(單位百萬留)

種別	一九二四—二五年度		一九二五—二六年度	
	購買限度 の取扱高	%	購買限度 の取扱高	%
都市	六、〇三五	一、四一七、八	八、二九七	二、四二〇、四
村落	二、六四五	六七八、〇	三、七二二	一、四二二、三
計	八、六八〇	二、〇九五、八	一二、〇一九	三、八三二、七
種別	一九二六—二七年度		一九二七—二八年度	
	購買限度 の取扱高	%	購買限度 の取扱高	%
都市	九、三二五	三、二〇八	九、七二九	三、八二五
村落	三、八二〇	一、九三七	四、一六八	二、三五二
計	一三、一四五	五、一四五	一三、八九七	六、一七七

此表に依つて見ると購買組合から住民が物資を購入する額及組合が住民の利便を計る%は益々増加して居る、就中組合が農民團の爲めにつくして居る役割は非常に重要であつて、一九二四—二五年度には一九%に過ぎなかつたものが二六—二七年には四四%一に進んで居る。

組合が農民の爲めを計る點は既に二倍に達して居るが市街地住民に工業品を供給する%は五九%八、農産品を供給する%は二五%一で、村落住民に工業品を供給する%は一九二四—二五年には一九%〇であつたが、二六—二七年には四四%一に進んで居る。

### 第四章 組合の諸相

下級購買組合の業務發達の跡を辿ると其最も成績の可良なるは農村の購買組合及市街地労働者購買組合であつて、之に次でものは運輸従業員購買組合である。

下級購買組合の小賣店増加、業務發達の状態等は左記の第七、八、九表に依つて見るが如く、近

年は主として新組合の設立を控へて、既存組合の小賣店網を擴張し、進んや其合理化を計る方針を採つて居る。

第七表 市街地労働者購買組合

年 別	組合數	賣店數	加入者株金 (單位千留)	一人持勞働者 及勤務人の加 入%	一組合の平均 賣店數	一賣店に對する 住民數(單位 千人)	總取引高 (單位百萬留)	原價に對する 諸掛加料
一九三三—二四年	一、五八〇	七、〇一〇	三、〇〇七	七、三六二	二、四四	四八、一	三、二	五九、三
同 二四—二五年	一、五八	一三、三五	三、七五	二、九九七	三、五三	四九、四	八、六	一九
同 二五—二六年	一、四七六	一五、四三	四、四〇	二、一三三	四、九五	五五、三	一〇、四	一七、二
同 二六—二七年	一、四三三	一六、九三	五、〇一八	三、六二一	七、〇〇	五九、七	二二、〇	一六
同 二七—二八年の豫想	一、三三三	一七、八一	五、七七一	五、〇〇〇	八、〇〇	六三、〇	二六、六	一、五
同 二六—二七年の對する二七—二八年の豫想	九六、六	二四〇、五	一六六、一	四五、三	二六六、八	二四三、三	二六六、〇	一〇〇、〇
同 二七—二八年の豫想	一、三三三	一七、八一	五、七七一	五、〇〇〇	八、〇〇	六三、〇	二六、六	一、五

第八表 運輸従業員購買組合

年 別	組合數	賣店數	加入者株金 (單位千留)	一人持勞働者 及勤務人の加 入%	一組合の平均 賣店數	一賣店に對する 住民數(單位 千人)	總取引高 (單位百萬留)	原價に對する 諸掛加料
一九三三—二四年	一、三八四	五、三二	二、八八	三、八五	四、三	三、四	五、七	一〇六、四
同 二四—二五年	一、七六	六、〇〇	三、六二	五、七一	七、四五	四、五	四、五	一八六、四
同 二五—二六年	一、二〇一	七、〇五	五、四九	七、四九	五、二	四、四	三、〇七、三	一六六、一〇、六
同 二六—二七年	一、一八一	七、九六	七、八〇〇	一〇、〇〇	八、〇〇	五、九	四、〇	一三、四
同 二七—二八年の豫想	一、一三三	八、五七	八、〇〇〇	一〇、〇〇	七、九〇	三、四、八	六、八	六、六
同 二六—二七年の對する二七—二八年の豫想	一一〇、五	一五、五	一四〇、五	三、七五	二、五九、七	一一一、〇	一四二、六	七九、〇
同 二七—二八年の豫想	一、一三三	八、五七	八、〇〇〇	一〇、〇〇	七、九〇	三、四、八	六、八	六、六

第九表 村落購買組合

年 別	組合數	賣店數	加入者株金 (單位千留)	一人持勞働者 及勤務人の加 入%	一組合の平均 賣店數	一賣店に對する 住民數(單位 千人)	總取引高 (單位百萬留)	原價に對する 諸掛加料
一九三三—二四年	三、〇三	六、七五	三、五九	六、三〇	二、二	一、七	四、五	四九、一
一九三三—二四年	三、〇三	六、七五	三、五九	六、三〇	二、二	一、七	四、五	四九、一

同 二四一五年	二、〇六	五、五七	五、〇四	一三、一〇	二、六〇	三、七	一、五〇	三、三三	九二、五	二七、八	三、四
同 二五—二六年	二、七	四、三	七、三〇	三、五八	三、一〇	三、四	一、六	二、六	一、六	八、九	
同 二六—二七年	二、七	五、〇〇	九、三〇	四、六〇	四、一〇	天	一、九	二、三	二、二五	一、一	八、〇
同 二三—二四年に對する二六—二七年の%	一、八	二、二	七、三	三、八	九、三	〇	一、四	〇	五、五	五、六	五、九
同 二七—二八年の豫想	二、三	五、〇〇	二、三	六、〇〇	五、五	四、六	二、一	二、五	二、六	〇	九、三

右三種の組合共に加入者の點から見ると好成績とは云ふ事が出来ない、農家の組合加入率は一九二二—二四年には一六%二であつて、二六—二七年には三八%四である、市街地労働者及サラリーマンの購買組合加入率は二二—二四年度には四八%一であつたが、二六—二七年度にも尙五九%七に止り成績は不振と認められる、之に反し運輸従業員購買組合は二二—二四年度に既に全従業員の七四%三を加入せしめて居たが四ヶ年を経過せる後に於ても八三%〇に止つて居る、之は初期に於て大部分が加入して居たのに依るものである。

### 第五章 購買組合の財政状態

左記第十表に依つて購買組合の財政状態を考査するに年々其組織の財政が強固に赴いて居る事を知る事が出来る、個有資財と借入資財との相互關係は、其歩調極はめて徐々ではあるが、改善せられつつある、一九二二—二四年度のバランスに依ると自己の資財は三二%四で殘金は借入であつたが、一九二七—二八年度には三六%二に進み、借入の分は六三%八になつた、個有資財の三分の二は運輸に充てられ、三分の一が不動産である、且つ其不動産たる部分は絶對的には増加して居るが、相對的には依然として大をなすに至らずして、表示期間を通じて一二%一から一六%に達したに過ぎない此期間に運輸資財は一四五%、不動産は七六%二、の増加をなし、バランス總額は一三三%六の増加を示して居る、個有資財は一九二七年十月一日の分を二四年十月一日に比する時は一六一%一、借入資財は一二%の増加である、負債の部の中にて急激の増加を示したるは、一般人民の貯金であつて、之は常に株式拂込金に比して少額であつたが、此傾向を生じたるは喜ぶべき事である、二七年十月一日現在下級組合網に預入れたる金額は合計一千五百万留に達する。

組合の財政状態は年と共に組合個有資財の増加と國家の支持とに依りて良好に進みつつありと



云ふ事が出来る。(第十表(單位百萬留))

年月別	資		負債	
	不動産	運轉資金	固有資財	借入資財
一九二四年十月一日	六八九、七四	一一〇、五	五七九、二四	二二二、五七
%	一〇〇、〇	一六、〇	八四、〇	三二、四
同 二五年同	九三九、八七	一四三、四九	七九六、三八	二八〇、六七
%	一〇〇、〇	一五、三	八四、七	二九、九二
同 二六年同	一、三一四、九	一七四、五五	一、一四〇、三五	四五〇、〇八
%	一〇〇、〇	一九、三	八六、七	三四、二
同 二七年同	一、六一四、〇	一九四、七五	一、四一九、二五	五八三、六五
%	一〇〇、〇	二二、一	八七、九	三六、二
二四年十月一日を一〇〇%とし二七年十月一日の%	二三三、九	一七六、二	二四五、〇	二六一、〇
二八年十月一日の豫想	一、九八〇、五	二二九、六	一、七五〇、九	七八一、〇

%	一〇〇、〇	一一、六	八八、四	三九、四	六〇、六
---	-------	------	------	------	------

### 第六章 組合取引経費、諸掛

獨逸に於ける小賣商の品物に掛ける値は蘇聯邦に比して甚し、高い、三十種目に付て調査したる所に依れば平均原價に對して五〇%の掛値をして居る、主なるものは靴は七〇—一〇〇%、織物は四〇—七〇%、牛肉、魚類は二〇—三〇%、小麦粉は二〇%であるが、蘇聯邦の村邊購買組合では平均一%—、市街地労働者購買組合に於ては一二%の掛値をして居る、即ち獨逸に比して四分の一に當る、また取引諸掛も同様の有様である、例へば米國の百貨店に於ては全運轉金額に對し二七—三〇%、獨逸に於ては二二%であるが、蘇聯邦に於ては市街地労働者購買組合は一〇%を要して居るに過ぎない。

其他の諸外國に於ては、一九二四—二五年度を探ると、蘇聯邦に比して同じく多額を計上して居る、例へば伯林にては二一%三五、ウイennaに於ては一九%〇三、英國リード組合に於ては一六%四五、ストツクホルムに於ては一二%〇四、コペンハーゲンに於ては一三%四二を要して居

るが、同年蘇聯邦の市街地組合に於ては一一%七を要したに過ぎない。  
諸外國小賣業の經費中大部分を占むるものは人件費、家賃、廣告料等であつて全經費の七八%  
を占むる有様である。

外國の所謂自由賣買に比して、蘇聯邦の計畫に組織せられ、統制せらるる取引の有利なる點は  
尙左の如きものがある。若し小賣値で或る品物を採つて、其生産費、其配給費を分析して、外國  
と蘇聯邦の分とを比較する時は、配給諸掛に於て取引の社會化に依つて居る爲め蘇聯邦に於ては  
比較にならない程安値である事を知り得る、一例として農産品の賣價を一〇〇として、一九二三  
—二四年の米國を見ると原價が三〇%で諸掛が七〇%であるが、蘇聯邦に於ては其生産費が六三  
%で諸掛が三六%一である、工業製品に付ても之と同様の有様である、革命前露國の商取引と  
今日の商取引との此關係は今日の外國との比較と同様に合致して居る。

## 農業生産組合

### ドミトレフスキー述

革命直前の露國に於ては農業生産組合は可成の大規模であり、農業上に於ても重大なる役割を  
演じて居た、一九一七年の同組合を見ると主として金融組合及貸付貯金組合であつて、組合合計  
二万七千六百八十五の内、之に該當するものが六〇%即ち一万六千八百八十五組合に及んで居た、  
一九一七年十月一日現在農産金融組合に加入して居た世帯數は一千二百萬戸で、財政バランスは  
十一億八千萬留で、其中七億二千一百万留は加入者の貯金の形式に依るものである。

革命後の農産組合發展に之を三期に分つ事が出来る、一九一七—一八年は其第一期であつて、  
下級組合網の業務發展と、管區は中央聯合の確立を特長として居る、下級組合の數は一萬五千に減  
じたが之に反して幾多の聯合會が成立した、戦時共產主義時代の農産宣傳は農業の衰微及販賣性  
の低下の意味に於て組合業務の確立を要求せざるを得なかつた。

其第二期は一九一九—二一年に渉るもので、一九二〇年十二月二十七日付の法令即ち農産組合

を購買組合と合併して其一分派とする事となつた爲め、當然一時的に農産組合の業務は縮小された。次で新經濟政策の實施となり、農産組合が獨立權を取得するに及んで、又々新时期が展開された、其特徴とする處は、生産力が急に増加し、取引高も之に従つて増加した事實である。

新經濟初年の農産組合經營狀態を明にすべき材料は不幸にして欠如し比較的明になつて居る、一九二三―二四年度以後の分に依つて記録する事とする。

現代の組合組織は綜合組織から専門化して來り、此傾向は特に上級網に於て甚だしい、其組合網及加入人員等は村落ソウエートの作製に依る左記第一表に依つて見る事が出来る。(單位加入者は千人)

種別	聯合會數	加入者數
中央聯合會(ウクライナを除く)	六	八
地方聯合會(同)	三三三	三四三
下級組合(同)	二五、八四〇	二八、五五〇
計	三三九	三三六

全聯邦下級組合 三三三、六九一、三五、七九二、三五、〇〇五

種別	聯合會數	加入者數
綜合組合	六、二〇	七、九〇三
ウクライナ	七、九〇三	七、五八六
十組合	六、三〇〇	八、八五七
牛乳製造組合	三、〇一五	四、六七二
特別組合	二、六〇二	三、四〇六
共同組合	九、〇九七	八、六八二
手工業組合	一、五八〇	一、四八〇
林業組合	七九七	七九二
計	三三三、六九一	三三五、七九二、三五、〇〇五

右表に依つて見る時は上級組合に於ては近時中央聯合會の専門化及中級網の統合化が行はれ、下級組合網にありては手工業、林業、綜合等々の縮小に依つて強固となり、農産金融及特別合同等に依つて改善されたる事を認め得る。

農産組合機關の専門化は住民の加入率を急激に増加し、従つて農業の發達を促し、其賣出し額

を増加させた。

然し、中央聯合會は其機關を非常に専門化したると雖も、尙今日に於ても未だ完全に専門化せざる下級綜合組合に於いて業務上多大の援助をなすを餘儀なくされて居る、下級綜合組合中の或るものは其地方の狀勢上未だ専門的の聯合會に加入し得ざる状態にあるものがあるのは餘儀なき次第である、従つて専門化の普及は農産組合に残されたる將來の仕事であると云ふ事が出来る。

加入者數は年と共に増加して居る、ウクライナ地方を除いて云ふと、一九二五年一月一には全農家の一五%六、同年七月一日には二二%五、二六年十月一日には二三%六に達して居る、近年(一九二八年)に至つては三〇%に及ばんとして居る、然し歐洲大戰前の此例たる五〇%には遠く及ばない、近時純合の行はるる結果或る管區に於ては加入減少をさへ示して居る。

農産組合の事業は順を追ふて進み、一九二五—二六年度には全蘇聯邦農産品取引の一〇%を占むるに至つた、各種類別に依る組合の取引數量は中央聯合會は非常に増加し、中級、下級の組合網にありては前年より若干減すると云ふにあらざるも増加遅々として居る。(第二表)(單位百萬留)

種 別 一九二三—二四年 二四—二五年 二五—二六年 二六—二七年(豫想)

下級組合(硝化、甜菜を除く)	二九〇、〇	五〇〇、〇	九〇四、〇	一、二〇〇、〇
前年に對する%	一〇〇	一七三	一八一	一三三
管區聯合會	二二六、〇	三三〇、〇	五八一、〇	七七五、〇
前年に對する%	一〇〇	一六二	一六六	一三四
中央聯合會	六〇、〇	一三三、一	二〇四、〇	三三四、〇
前年に對する%	一〇〇	二二〇	一五四	一六八
計(ウリライナを除く)	五六六、〇	九八二、一	一、六八九、四	二、三一九、〇
前年に對する%	一〇〇	一七三	一七二	一三八
蘇 聯 合 計	統計なし	一、二四四、四	二、一〇〇、八	統計なし

取引を供給(工業製品及農産生産用品)及販賣(農産品及原料品)の二部に分類すると、中央聯合會を除いては供給業務縮少して販賣業務が進展して居る、之は左記第三表に依り總取引高に對する各業務の%に依つて知る事が出来る。

種 別	一九二三—二四年	同 二四—二五年	同 二五—二六年
供給	販賣	供給	販賣
供給	販賣	供給	販賣

中央聯合會	三〇、〇	七〇、〇	一九、二	八〇、八	二五、〇	七五、〇
管區聯合會	四六、九	五三、一	四九、一	五〇、九	三五、九	六四、一
下級組合	四七、九	五二、一	四七、六	五二、四	四七、六	五二、四
計	四五、六	五四、四	四八、〇	五二、〇	四〇、〇	六〇、〇

中央聯合會の供給業務の擴張は或る點迄工業企業との綜合契約に依る計画的供給が増加したるに依るものと認むる。

露西亞共和國勞農監査院の統計に依れば、農業組合聯合會の金屬及建築材料部が一九二四—二五年に結んだ綜合購入契約の總計は三百三十六萬八千留、二五—二六年度には八百五十九萬一千留、二六—二七年度には一千二百萬留に當つて居る、而して計画的供給をなすに及んでは益々業務の方法が改善された、即ち一九二五—二六年度には販賣に依る取引額の二五%が賣店から交附され、二七年の四ヶ月間には其交附が一八%に及び、残余の販賣は中繼に依つて行はれた。

供給貨物中主要なるものは農業用機械であつて、農業組合聯合會を通じての統一されたる供給は一九二四年には農用機械を販賣する中心機關たる國營農業倉庫、農業機械會社、國營商業部の總

賣却高の一五%五、一九二五年には一二%七、二六年には一五%四に及んで居る、農業組合が農用機械を買用化するに力める事は明であつて、其參與率は六〇%に及んで居る、之を管區別に見る時は一層好成績なるものがあつて、地方に依りては農業組合が農用機械購入上一〇〇%を占めて居る、即ち組合以外には購入する向がない處さへある。

又農業組合は植物原料(亞麻、煙草、葉煙草ト級品)、輸出バター等の販賣市場に於ても多大の成績を挙げた、牧畜原料品市場に於ては羊毛販賣に於て成功した、穀物に付ても中央部の専門化と共に多大の進展を示して居る、就中成績の可良なるは牛肉及果實野菜市場に於ける成績である、左表は商業部の發表したる國家の計画的購入に對して農業組合の演じたる役割を示すものである。

品目	年	別	内		組合の總購入額		
			計畫購入高	譯			
穀物(油種を除く)	千屯	同	農業組合購入計畫に對する%	購買組合購入計畫に對する%	數量		
			對する%	對する%		對する%	
一九二四—二五年	四、五七五、四	三三六、一	七、三	四二二、九	九、二	七五九、〇	一六、六
二五—二六年	八、四二一、三	六七〇、五	八、〇	一、三八一、九	一六、四	二〇五二、四	二四、四

油脂作物  
 二六—二七年 二〇、五五〇、八一、五七三、七 一四、九二、二〇四、九 二〇、九三、七七八、六 三五、八  
 同  
 同  
 同

バター  
 千屯  
 同  
 同  
 同

鶏卵  
 千車  
 同  
 同  
 同

二四—二五年 八、〇 二、四 三〇、〇 一、〇 一二、五 三、四 四二、五  
 二五—二六年 七、一 二、一 二九、六 〇、七 九、八 二、八 三九、〇  
 二六—二七年 一三、四 五、八 四三、三 二、六 一九、三 八、四 六二、六

亞麻  
 千屯  
 同  
 同

大麻  
 千屯  
 同  
 同

煙草  
 千屯  
 同  
 同

大皮革  
 百萬枚  
 同  
 同

二四—二五年 五、二 一 一 一 一 一 一

二五―二六年	五、二	〇、三	五、八	〇、三	五、八
二六―二七年	七、一	〇、五	七、〇	〇、五	七、〇
小皮革	百萬枚	同	同	同	同
二四―二五年	一一、八	一	一	一	一
二五―二六年	一五、六	一、〇	六、四	一、〇	六、四
二六―二七年	一六、四	〇、九	五、〇	〇、九	五、〇
粗葉煙草	千屯	同	同	同	同
二四―二五年	三九、三	九、八	二五、〇	八、九	二五、〇
二五―二六年	七五、四	三四、四	四五、六	三四、四	四五、六
二六―二七年	一〇八、二	九五、一	八七、八	九五、一	八七、八
羊毛	千屯	同	同	同	同
二四―二五年	一八、〇	三、七	二〇、五	一、二	六、六
二五―二六年	二一、三	五、〇	二三、五	二、九	一三、六
二六―二七年	二七、五	一〇、〇	三六、三	一〇、〇	三六、三

農業組合が國營購入業務を援くる意味に於て大成功を収めたる原因は、國營購入事業が一般的に整理せられたるに依るものなりと雖も、主として購入機關が主要購入者を制限確定し、購入業務を産業管區別に取扱ひ、購入者相互間の關係を圓滑ならしめ、従つて農業組合が其取扱購入者に充分に穀物等の收穫物を提供し、農業組合の運搬系統を整理し、農業組合一般の業務振興方法を採りたる事等が之である、重要農産品國家購入業務の統計は、他の種類の購入經費に比して非常に少額なる事は左表に示すが如くにして、即ち農業組合の成功を語るものである。

亞麻(一ツエントネルに付て)(中央機關の經費を除きて)	一九二五―二六年
リノトルダ(亞麻國營會社)	六二四留〇九哥
ゴストルダ(國營商業部)	六三七、九四
リノツエントル(亞麻中央聯合)	五七四、五六
中央機關の經費共	
リノトルダ(前出)	六九〇、〇三
ゴストルダ(同)	七〇五、〇九

リノツェントル(同)

六八二、二二

穀物一ツェントネルに付て

一九二五—二六年前半期

二六一—二七年前半期

フレフプロツクト(國營穀物會社)

八九、六七

四〇、五六

ツェントロソユーズ(購買組合中央聯合會)

八七、二四

三九、一五

フレフツェントル 穀物組合中央聯合會)

六五、〇七

三七、九〇

然しながら全体的に云ふ時は農業組合機關の經費は非常に高く、此點に付ては各方面から其合理化と經費節減とが呼ばれて居る。

農業組合中央聯合會の總經費は連續的に引下げられては居るけれども、左記第五表に見るが如く未だ極はめて高いものである。

第五表 總取引高に對する%(農村ソウエートの統計に依る)

年 別	農業組合	バター	亞麻	馬令薯	葡萄酒	煙草	林業	平均
一九二四—二五年	中央會	中央會	中央會	中央會	中央會	中央會	中央會	中央會
	三、八五	一三、〇	四六、〇	七、〇〇	五、八五	—	七〇、〇	三、四

同 二五—二六年 三、二九 一〇、八 三六、〇 五三、〇 五、七〇 二、二三 五三、〇 二、九

中央機關の一九二五—二六年度の經費は總取引高に對して八%五で二四—二五年度には一%三であつた、金融組合では一%一、農業金融組合では九%八であつた、如斯農業組合の經費多額なるは個有の資財不足にして、借入資財に依つて業務を行ふ必要がある爲めと、取引機關が能力一杯の活動を爲さない爲めである。

以上の如き状態ではあるが國營工業に原料を供給する業務上農業組合の演ずる役割は年と共に増加して來た、之は左表第六表の示す如くである(農村ソウエートの統計に依る國營工業に供給する%表、ウクライナ農業組合を除く)

年 別	煙草	粗煙草	綿花	甜菜	亞麻	羊毛	大麻
一九二五—二六年	五〇、〇	四五、三	七五、〇	四四、〇	二、四	四五、〇	六〇、〇
二六—二七年前半期	六九、〇	七七、〇	八六、〇	三九、三	二七、〇	五五、〇	一〇〇、〇

農業組合と國營工業間の經濟的相互關係は綜合契約に依るもので、同契約は農業組合と中央聯合



會と、國營工業トラスト又は其代表たる國營商業都而て契約締結さるるものである。

農業組合は一九二三年から外國貿易界にも進出し、年と共に盛大に赴いて居るが、其對手は外國の菱石なる産業組合、銀行及商業機關である。一九二六年に於ける農業組合中央聯合會の外國貿易總額は七千八百四千万で、内輸入高は一千〇五十万留である、農業組合の各品目別輸出高は村落ソウエート統計に依つて第七表に示す如くである。

第七表 (左表中單位は鶏卵及野鳥の貨車數を除くの外全部千屯なり)

品目	一九二三—二四年		一九二四—二五年		一九二五—二六年		二六—二七年 前半期	
	數量	同品總輸出に對する%	數量	同品總輸出に對する%	數量	同品總輸出に對する%	數量	同品總輸出に對する%
バター	五、一一	—	一一、二二	七四、七	一一、九八	五二、二	一、五一	五二、一
亞麻	九、七二	—	一三、一七	二四、六	二〇、八三	二九、七	一一、五五	四一、二
亞麻種	一、〇	—	一四、二二	—	七、〇	—	—	—
穀物	—	—	九八、〇	—	一〇、二二	四、六	三三、五、八	七、〇
鶏卵野鳥	—	—	—	—	三〇五、〇	—	四、二	—

煙草 一、一三三 〇、六四 八六、〇  
 果實野菜 一、一三、八二 〇、九六  
 木材 一、五、二九 四、六六  
 化學製品 一、七、三六 九、〇一

農業組合の一般的經濟状態は非常に緊張して居て、其間余悠か殆んど無い、之は先にも述べたが如く、組合個有の資産が極はめて貧窮であつて、常に借入資財に依つて業務を行つて居る爲めである、多數に涉り各級の組合機關の綜合的バランスを第一表に示す。(單位百万留)

種別	個有資産(長期借入を除く)		不、動産		取引額に於ける個有資財		結果	
	金額	ラバンに對する%	金額	ラバンに對する%	資産に對する%	負債に對する%	借入資財	株金
一九二四年一月一日								
下級組合	110,0	五、七	四、九	四、八	一〇、三	一、三	五、三	四、五
中級聯合會	101,1	三、三	三、一	三、三	(十)一〇、二	三、〇	三、八	三、三、五
中央聯合會	—	—	—	—	—	—	—	—
一九二五年十月一日								

下級組合	三九三、七	二九、九	七、〇	二四、一	(一)三、三	一五、五	〇、三	二四、〇	七五、二	二七、一	五、三
中級聯合會	二七二、一	二五、一	一一、一	三三、五	一〇、八	(一)一、六	三、六	九七、一	八八、八	六、〇	二、八
中央聯合會	一五〇、三	六、二	四、七	九、〇	六、九	(一)二、八	一、〇	一一、一	九四、五	二、七	二、一

一九二六年十月一日

下級組合	四五六、九	四四、四	三三、二	一〇三、八	二四、四	(一)八、四	一六、三	〇、三	三四、九	七四、〇	二五、七	六、一
中級聯合會	二五七、三	三四、三	三三、一	三〇、五	三三、一	(十)〇、九	五、六	六、五	三三、七	八五、八	九、〇	〇、三
中央聯合會	一八三、二	八、〇	四、三	一八、四	一〇、一	(一)〇、四	四、八	四、三	一七、〇	九三、〇	二、五	一、三

上記の表に依る時は殆んど各級機關に於て個有資財は取引に參與して居らない、只下級組合に於ては業務連續性が組合の財政上の確實性を保つて居る、就中財政困難なるは中央聯合會及管區聯合會であつて、國家が相當の苦心をして後援し居るに關らず、現在未だ健全に赴く曙光が認められない。

一九二七—二八年の農業組合の業務に付ては、村落ソウエートの豫想と豫想數字とに依るは上級、中級機關の業務が益々増加するものと考へられる。

一九二六—二七年二七—二八年との農業組合の取引數量を金額で示すと左表の通りである。(單位百万留)

種別	一九二六—二七年	一九二七—二八年
中央聯合會	三四四	五七〇
前年に對する%	一六八、六	一六五、四
管區聯合會	七七五	九九〇
前年に對する%	一三三、三	一二七、七
各地農業組合	一、二〇〇	一、五〇〇
前年に對する%	一三三、一	一二五

主要國營購入機關の數の制限に供ひ農業組合の役割が重大化した事、及國營工業に供給する品目が計画的に擴大せられたる事等は、將來益々農業組合の存在を重視するに至らしむるものと認むるのである。(終)

蘇聯邦シンジケート組織、購買及農業生産組合(終)

哈爾濱商品陳列館刊パンフレット目録

號數	書名	備考
一	東三省特別區市内、郷、自治、暫定規則並施行令	(缺)
二	北滿特産と日本特産商の現状	(缺)
三	滿洲里、海拉爾事情	(缺)
四	勞農露西亞の國家制度(上)	(缺)
五	同 (下)	(缺)
六	勞農露國の對外貿易規則集(上)	(缺)
七	北滿洲の工業概観	(缺)
八	勞農露國の對外貿易規則集(下)	(缺)
九	現行勞農商業法規概説	(缺)
一〇	現行勞農企業法規概説	(缺)
一一	西伯利經濟事情(上)	(缺)
一二	同 (下)	(缺)
一三	北滿地方の阿片	(缺)
一四	露國の亞麻と北滿洲の亞麻栽培研究	(缺)
一五	(一)ソウエート、憲法史の梗概 (二)金融上より見たる東嶺附屬土地建物の權利關係	(缺)
一六	(一)ソウエートの最高裁判 (二)ソウエート機關の概要	(缺)
一七	勞農露國に於ける取引契約	(缺)
一八	(一)村落、郷ソウエート機關の概要 (二)勞農當局の説明せる同國の現状	(缺)
一九	(一)同縣州内國貿易部 關する規定(缺) (二)勞農勞動組合法規 (三)ソウエート内に於て外國人が商業に従事する規定	(缺)
二〇	包装の研究	(缺)
二一	ウクライナ共和國の概況	(缺)

- 三二 北滿地方の阿片 (下)
- 三三 北滿に於ける露人及外人關係事業 (缺)
- 三四 露領極東大觀(一) (缺)
- 三五 同 (二)
- 二六 入露の指針
- 號外 臺灣の旅
- 二七 (一) 勞農黨國內異種民族共和國の近況  
(二) 勞農黨國內及極東購買組合成績
- 二八 露領極東大觀(三)
- 二九 哈爾濱に於ける列國の經濟勢力(上)(缺)
- 三〇 全 (下)(缺)
- 三一 露人の見たる太平洋問題解決道程一(缺)
- 三二 東支沿線指南(上) (缺)
- 三三 勞農黨立極東及極東農業銀行定款
- 三四 露人の見たる太平洋問題解決の道程(二)
- 三五 露領極東概観
- 三六 露人の見たる太平洋問題解決の道程(三)
- 三七 東支沿線指南(中) (缺)
- 三八 露人の見たる太平洋問題解決の道程(四)
- 三九 沿海縣事情(上編)
- 四〇 一九二五年—二六年度ソウエート國民經濟豫想
- 四一 大正十四年度勞農黨國
- 四二 沿海縣事情(中編)
- 四三 同 (後編)
- 四四 ソウエート聯邦對外貿易銀行定款
- 四五 極東經濟問題中に現れた東支鐵道(上編)
- 四六 同 (下編)
- 四七 公報より見たるソウエート聯邦經濟狀況
- 四八 ソウエート對外獨占とネープ
- 四九 計画的經濟と外國貿易獨占
- 五〇 ソウエート極東の教育
- 五一 ソウエート國營工業
- 五二 (一) ソウエート一九二五年度の經濟政策  
(二) ソウエート工業管理に職業全盟參加
- 五三 ソウエート利權政策の新傾向

- 五四 經濟上より見たる勞農黨西亞
- 五五 極東地方金融制度
- 五六 ソウエート聯邦法規概要(上)
- 五七 勞農黨西亞の財産權
- 五八 ソウエート聯邦法規概要(下)
- 五九 ソウエート聯邦に於ける密輸 (缺)
- 六〇 ソウエート聯邦に於る外國貿易(一)(缺)
- 六一 同 (二)(缺)
- 六二 東支沿線指南 下編(乾)
- 六三 同 (坤)
- 六四 ソウエート聯邦に於ける經濟事情 (缺)
- 六五 ソ聯邦と共和國並に共產黨と猶太人(缺)
- 六六 ソウエート文化施設外國人の權利義務私有財産及相續財産
- 六七 西伯利地方極東地方並ヤクーツクスクブリヤトモゴリ社會主義ソウエート自治共和國
- 六八 ソウエート聯邦利權法(上編)
- 六九 同 (下編)
- 七〇 ソウエート聯邦に於ける輸出貿易の期節性
- 七一 ソウエート極東地方の諸統計
- 七二 洮昂及四洮鐵道案内
- 七三 一九二六年度蘇國の外國貿易と日蘇貿易
- 七四 支那領烏蘇里沿岸事情
- 七五 ヤクーツク共和國(上卷)
- 七六 ヤクーツク共和國(下卷)
- 七七 最近に於ける蘇聯邦の國民經濟一般
- 七九 極東經濟及び文化的施設に對する各委員の報告概要
- 八〇 極東殖民史
- 八一 松花江沿岸事情
- 八二 北滿の移民
- 八三 沿海縣の水田
- 八四 ソウエート共和國土地法典(前編)
- 八五 同 (後編)
- 八六 露支東部國境の密輸事情
- 八七 呼海鐵路並に沿線事情

- 八八 吉拉林及三河地方事情
- 八九 ロシヤ雜報(上篇)
- 九〇 同 (下篇)
- 九一 松花江の航運
- 九二 極東の水田
- 九三 ソウエート聯邦概覽
- 九四 北滿に於ける輸入商品(その一)
- 九五 蘇聯邦極東産業計畫
- 九六 極東沿海地方の諸企業(上卷)
- 九七 極東沿海地方の諸企業(下卷)
- 九八 北滿に於ける輸入商品(その二)
- 九九 現行外國利權及國民經濟に及ぼす影響
- 一〇〇 旅大並に南滿東支鐵道附屬地とその隣接地帯に於ける支那人の經濟的勢力
- 一〇一 蘇聯邦の課税と反幹部派
- 一〇二 東支鐵道沿線牧畜狀態及同鐵道の對策並に沿海縣北滿の米作
- 一〇三 ソウエート聯邦における原料貯藏高

- 一〇四 吉林省中部各縣事情 (上卷)
- 一〇五 同 (下卷)
- 一〇六 蘇聯邦の大資本施設 (上卷)
- 一〇七 同 (下卷)
- 一〇八 昭和三年哈爾濱市況
- 一〇九 傅家甸に於ける工業
- 一一〇 蘇聯邦の國營保險
- 一一一 北滿に於ける輸入商品(その三)
- 一一二 哈爾濱に於ける商工組合其他規定集(上)
- 一一三 蘇聯の失業と其對策
- 一一四 哈爾濱に於ける商工組合其他規定集(下)
- 一一五 松花江の航運 附黑龍江航運の使命
- 一一六 極東露領の植民
- 一一七 東支鐵道南部沿線事情
- 一一八 極東露領視察記(一)
- 一一九 同 (二)
- 一二〇 極東露領移民事用地の概要
- 一二一 最近の浦鹽斯德港

- 一二二 東支鐵道西部沿線事情
- 一二三 烏蘇里地方に於ける朝鮮人
- 一二四 東支鐵道問題の真相と其經過(上)
- 一二五 同 (下)
- 一二六 東支鐵道西部沿線事情(下)
- 一二七 傅家甸の商工一覽
- 一二八 ブリヤートモンゴリヤ社會主義ソウエート自治共和國事情 (上)
- 一二九 同 (下)
- 一三〇 最近西伯利産業の發達に就て (上)
- 一三一 同 (下)
- 一三二 昭和四年哈爾濱商況
- 一三三 北滿大豆、豆粕及豆油の輸出組織
- 一三四 西伯利地方の鑛産 (上)
- 一三五 同 (下)
- 一三六 東支鐵道東部沿線事情 (上)
- 一三七 洮昂、四洮及打通鐵道一般經濟事情上
- 一三八 同 (下)

- 一三九 濬海、吉海鐵道沿線事情
- 一四〇 獨逸輸出貿易出張員を顧みて
- 一四一 呼海鐵道と其沿線特産事情
- 一四二 北滿鮮人農村概況
- 一四三 蘇聯邦の内外商業及工業に對する批判 (上)
- 一四四 同 (下)
- 一四五 露西亞共和國コルホズ共同農業に就て
- 一四六 蘇聯邦ソフホズの研究(上)
- 一四七 齊克鐵道及沿線事情 (上)
- 一四八 東支鐵道東部沿線事情 (中)
- 一四九 「ソフホズ」の研究 (下)
- 一五〇 北滿に於ける日本商品の劣勢なるものに關する調査 (上卷)
- 一五一 世界的不況と其極東及滿洲に及ぼしたる反映

- 一五二 北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの  
に關する調査中卷 (缺)
- 一五三 齊克鑛道及沿線事情 (下)
- 一五四 北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの  
に關する調査 下卷 (缺)

一五二 北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの  
に關する調査中卷 (缺)

一五三 齊克鑛道及沿線事情 (下)

一五四 北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの  
に關する調査 下卷 (缺)

一五二 北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの  
に關する調査中卷 (缺)

一五三 齊克鑛道及沿線事情 (下)

一五四 北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの  
に關する調査 下卷 (缺)

終

